

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日:2024年3月31日

事業所名:児童デイサービス紅葉 御崎公園スタジオ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	国の指定基準を満たしたスペースを確保しており、休憩用・学習用・遊ぶ用と用途に分けた部屋となっており、整理整頓を心がけている。	はい・・・95% 「広々とした室内なので、雨の日でも十分に過ごせると思う。」 どちらともいえない・・・5% 「大きいお子さんもいるので、もう少し広いと良い」 いいえ・・・0% わからない・・・0%	指定基準に対し、施設が基準をしっかりと満たしていることを、分かりやすく保護者に説明していく。
	2 職員の適切な配置	最低基準はクリアしているが、個別対応が必要な児童に対する支援を充実させるためには職員数が足りていないときがある。	はい・・・95% 「専門の先生がもう少し増えても良いかと思う」 どちらともいえない・・・5% いいえ・・・0% わからない・・・0%	人員配置を再検討し、より高い専門性のある職員の導入もすすめていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	トイレに段差がある為、介助が必要な児童が使用する際には、見守り・手を取るようになっている。 トイレの老朽化に伴い、昨年新しい便座の設置を行っている。	はい・・・85% どちらともいえない・・・15% いいえ・・・0% わからない・・・%	施設の構造上、バリアフリー化が難しい場所もあるが、安全を確保し、けががないよう十分な配慮を行っていることを伝えていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎日のミーティングや、月に1回の全体会議の場を持ち、前月の反省などを行っている。		今後も現状を継続していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	神戸市が行っている巡回支援を依頼している。		来年度にも活用していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	各企業や自治体を実施している研修会に積極的に参加し、それを水平展開できるようにミーティングで共有している。		今後も現状を継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	支援期間ごとに保護者との面談を行い、支援内容の確認を行っている。また、職員間でも支援方法について話し合い、より良い支援計画作成に努めている。	今後も現状を継続していく。	
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	面談を通じて、家庭・学校・放課後等デイサービスでの情報を共有し、それに基づいた個別支援計画を作成している。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0% わからない・・・0%	今後も現状を継続していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	5領域の内容に対応した個別支援計画の作成を行っており、項目ごとに利用者の課題と、課題に対する支援内容を設定している。		今後も現状を継続していく。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	定期的に見直しを行っている。また、全体会議の中で面談内容を共有し、利用者それぞれの目標を確認しながら支援を行っている。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0% わからない・・・0%	今後も現状を継続していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	プログラムを行う職員全員で意見を出し合い、毎月のプログラムを作成している。新しい場所での新しい体験を目標に掲げ、プログラムのアイデアを出し合っている。		今後も現状を継続していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は学校終了後、長期休暇や休日、代休日などは午前から施設を開所している。保護者のニーズに合わせたお迎え時間の設定にも努めている。長期休暇などは、外出など平日ではできないプログラムを取り入れるようになっている。	はい・・・100% 「外出プログラムが多く、いろんな経験ができるので、嬉しい」 どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0% わからない・・・0%	今後も様々な活動や体験を行い、子どもたちの成長の場を提供できるように努めていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	5領域をバランスよく取り入れ、曜日ごとにプログラムを固定することなく、ご利用者様全員が様々な経験ができるようにプログラムの日程も工夫している。		今後も活動プログラム内容の固定化、曜日での固定化をしないよう、調整していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日ミーティングを行い、その日の支援内容や子どもの伝達事項、前日の様子などを共有している。		今後も継続して行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
こ ろ	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	その日に合った出来事や伝達事項は記録に残し、次回のミーティングで共有できるようにしている。また、送迎終了時に職員間で話し合う機会を持っている。		全員が記録に目を通し、伝達の漏れがないように配慮しながら、今後も継続して行っていく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	様子や支援内容は記録を残し、振り返りを行っている。職員間はもちろん、送迎時や連絡帳を用いて保護者とも情報共有している。		今後も現状を継続していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月に一度保護者様との面談の機会を持ち、現状の確認、ご家庭でのご様子などを共有し必要に応じて支援内容の見直しを行っている。		今後も現状を継続していく。
関係機関と	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	定期的に相談支援事業所との支援会議を実施し、支援方法の見直しや現状報告、今後の方向性などの話し合いを行っている。		今後も現状を継続していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者の了承の基、支援内容を情報共有することがある。		保護者からの要望があれば、今後も検討を行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
の連携	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	学校卒業後の進路先に対して、必要があれば保護者の同意を得た上で、これまでの支援の記録等の情報提供を行う。		保護者からの要望があれば、今後も検討を行っていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現在行っていません。		必要に応じて検討していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	3事業所合同のイベントを企画し、他事業所の利用者様との交流も行うようにしている。		ハロウィンパーティーや老人ホームへの訪問など地域の方々との交流企画を今後も継続して行っていく。 障害のない子どもと共に活動できる機会は少ないが、外出等で公園に行ったりすることで一緒に遊んだりする機会は多少あるが 今後は児童クラブや児童館との交流を企画していきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	ハロウィンでは事業所付近でパレードを行い、地域のお店の方に協力してもらい、おやつをもらうイベント行っている。 本社のグループホームで高齢者の方との交流会も企画している。	はい・・・15% どちらともいえない・・・50% いいえ・・・35%	
保護者への説明書	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学时や契約時に保護者に説明を行い、必要があれば再度説明をしている。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0%	今後ご理解いただけるよう、より丁寧な説明を心掛けていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談時に前回の支援計画書を基に振り返り、十分な聞き取りを行ったうえで説明している。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0%	今後も丁寧な説明を心掛け、支援の方向性を共有していけるよう努めていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現在行っていない。相談等があれば一緒に考えたり、適宜アドバイスを行っている。	はい・・・50% どちらともいえない・・・16% いいえ・・・16%	要望があれば実施を検討する。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時、必要に応じて電話をかけて情報の共有を行っている。	はい・・・100% 「活動の動画や写真をたくさん撮ってくれるので 様子がわかりやすい」 どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0%	今後も現状を継続していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者からの相談があれば、職員との面談を行い、話し合いの場を設ける。	はい・・・85% どちらともいえない・・・15% いいえ・・・0%	保護者とのコミュニケーションをこまめにとり、相談しやすい環境づくりに努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
ハ・ 連携支援	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施時期、実施内容など計画を職員間で話し合い、企画していく。	はい・・・5% どちらともいえない・・・45% いいえ・・・50%	交流の機会を持ちたいという要望もあり保護者アンケートを実施し、企画を進めていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情があった際、内容を丁寧に聞き取り、保護者様にも伝えている。また、事業所全体で共有し、再発防止に努めている。	はい・・・90% どちらともいえない・・・10% いいえ・・・0%	ご指摘があれば今後もスピードをもって対応していく。特に最初の対応が大切なことを再度確認していく。また、苦情対応窓口についての説明も、契約時等にしっかり行っていく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	タイムタイマーを用いたり、視覚教材(ピクチャーカード)を用いて、個々に工夫を行っている。保護者には口頭だけでなく、必要に応じてLINE、書面で説明したり、見本などを示している。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0%	個々の特性に応じて、支援内容を変えていく。指導員間で会議を行い、共通認識を持って支援していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、会報とプログラム予定の配布を行っている。また、Instagramで日々のプログラム内容、子どもたちの様子を配信している。	はい・・・100% どちらともいえない・・・0% いいえ・・・0%	今後も現状を継続していくとともに、Instagramやブログ等のSNSのアクセス方法を伝えていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に記載されたものは鍵付きの書庫に入れ、その鍵も3重で鍵をかけている。また、ロック番号も定期的に変更している。SNS等の管理については、顔や姿をアップしてよいかのアンケートを事前にとり、それに基づいて編集を行っている。また、保護者限定アカウントは保護者であるという確認が取れなければ見れないシステムにしている。	はい・・・90% どちらともいえない・・・5% いいえ・・・5%	今後も個人情報の取り扱いには十分注意していき、保護者の方が安心できるよう、厳重に保管していることを伝えていく。配布物についても配布間違い等がないよう全員で確認していく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを事業所入口付近に設置し、職員間で周知している。また、変更があれば随時保護者にも周知している。また、感染症対応など、ロールプレイングをすることで、対応力を身に着けられるようにしている。	はい・・・85% どちらともいえない・・・15% いいえ・・・0%	マニュアルに基づいて定期的に職員研修を行っていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回、火災や地震だけではなく、不審者など様々な場面を想定した避難訓練を行っている。	はい・・・70% どちらともいえない・・・25% いいえ・・・5%	今まで行ってきた想定以外にもいろんな場面に対応できるよう、継続して避難訓練を実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年に4回虐待・身体拘束ミーティングを開催し、日々の支援内容の振り返りや、事例検討を行っている。また、虐待に関する研修を積極的に受けていく。		今後も継続して行っていき、職員の虐待に関する意識向上に努める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束の必要がある場合は、事前に保護者と話し合い、支援計画書に記載、同意を得る。実際に行われた場合には、記録に残す。		今後も現状を維持していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	施設利用開始時にアレルギーに関する確認を行っている。アレルギーや苦手な物は一覧にし、職員のすぐ目につくところに掲示している。		今後も対象の方がいた場合、保護者と相談しながら対応を決めていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例集を作成しており、職員間で共有し、対応を話し合っている。		今後も大きな事故につながらないように、ヒヤリハット事例集を活用していく。